

(平成23年12月16日掲載)

平成23年度 第2回 山梨県職業能力開発審議会 議事録

日時：平成23年8月17日（水）午前10時から

場所：北別館507会議室

- 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議事
- (1) 第9次山梨県職業能力開発計画（案）について
～事務局説明～

【議長】

説明内容に関して質疑、意見はあるか。

【委員】

まず大きなところで17ページ、学卒でまだ仕事についてない者について、「知識・技能・経験の不足やコミュニケーション能力などの基礎的能力の不足等により就職困難な状況にあることから」となっているが、大学を卒業して就職しない理由はこれだけではなく、もっと色々な事情があると思う。学卒で就職してない人がすべてこれにあてはまるということではないと思うので、「多いと考えられるため」とか、そうでないところもあるという含みで書いた方が良いのではないか。

それから18ページの母子家庭の母等への支援というところで、近年、母子家庭でなく父子家庭もかなり多くなってきているようで、例えば中高年の男性の就職とか就業とかについてもかなり問題があるように聞いているので、母子家庭の母等の支援と「等」がついているからそういう人達も含まれると思うが、父子家庭の父も参加できるような広報とか啓蒙とかが必要だと思う。

それから細かいところで1ページの「県立職業能力開発施設の在り方ビジョン」とか、既にある計画がいくつか出てきているが、「」を付けるのであれば山梨県産業振興ビジョンにも「」を付けたほうが初めて読む方も読みやすいと思う。6ページ辺りもそういう言葉が出ている。

それから4ページと5ページのところで、国の調査結果とかニーズ調査、私たちはニーズ調査を見ているが、こういうのは「*」とか付けてどういった調査かということをも明記したほうが初めて読む人は分かりやすいのではないか。

あと13ページのポリテクセンター山梨のところで、文章が進行形になっていて、他のところは、実施している、進めているとなっており、書き方が他と不揃いのような気がする。

そのところの「また」以下の専門短期課程の在職者訓練のところ、進め、促進している、となっているが、初めて読む場合は2つに分けたほうが読みやすいのではない

かと思う。

それから16ページの技能の振興のところ、初め説明があって、「また」があって「さらに」があって「また」がきている。ここの内容を見ると児童生徒を対象とした内容と、高校、大学を対象とした内容があるので、児童生徒を先にして、さらに大学、高校とのインターンシップの連携と進めたほうが分かりやすいと思う。

もう一つ19ページの関連行政分野における施策と連携の強化のところ、福祉から雇用への誘導という言葉がでてくるが、ここは生活保護を受けている方が就業していくよう支援するという話だと思うが、初めて読む人が分かりにくいかもしれない。

【委員】

日本が現在一番力を入れなければいけない産業界のものづくりというところにポイントを置いた非常に力強いレポートになっていると感じており、また、心ならずも弱者になっている人々への配慮もきめ細かく出ている提言だと感じている。

しかし、私のところは中小企業だが、こちらにいる委員は、事業主の人はそうでもないかもしれないが、労働者を代表する委員は日本を代表する世界的な企業に属する人達で、それぞれ協力企業の人材育成等に配慮しているとは思いますが、できれば、余計なことかもしれないが、事業主代表あるいは労働者代表の中に県内の製造業のいわゆる中小企業、伝統産業とか地場産業のリーダーの人も入れていただくと、業界弱者としての意見等も聞けたのかなと感じている。

もう一つ、第2次産業、特にものづくりがポイントになっていることは大賛成だが、恐らく県内の機械電子工業の生産額に匹敵するだけ、流通業の売上高も多分2兆円前後あると思うので、卸売業とか小売業、そういった関係のことを、メンバーも含めて入れていただくことをお願いしたい。産学官の連携を県は積極的に進めており、そういうチャンスも多く、流通業などは経済団体もきっちりできているので、意見は入っていると思うが、感想ということで述べた。

【委員】

全体的に計画としてはこれでよいと思うが、仕分け等による色々な機関の再編があった。今回の第9次は大幅な機関の変更があったことを踏まえて、方法面でどのようにその機関を使うのか、あるいはその機関を使うことによってどのような成果がでるのか、その辺のところを強調していただきたい。

もう一点、第9次計画は第8次計画と違って背景が非常に厳しいということ踏まえて、計画は5年ということで、これを策定した県の人はいずれもこの計画を推進していく立場から、県では異動とか転勤とか2年か3年のスパンでやっていると思うが、この計画自体が非常に大きなものを持っているということ踏まえれば、専門家、これに携わっている県のスタッフの人が何年か必要である。計画期間中にまたスタッフが変わってしまうというようなことは絶対避けていただきたいと思っている。

【議長】

細部にわたる文言の御指摘から理念のことまで、あるいは県の人員配置のことまで、非常に大きな提言まであったが、他に意見ないか。

【委員】

16 ページで、「父母、地域住民」とあるが、父母会とは言わないで保護者会と言い父母でない保護者もいるので、保護者という言葉のほうが一般的ではないか。

【委員】

資料3の3ページ「県の施策等に対する意見」の対応、考え方が、ほとんど、検討していく、今後検討していく、進めていく、検討していくという表現になっている。こういう表現でいくと、ややもすると忘れてしまう。考え方として出しているの、5年計画の中、あるいは単年度の計画の中で、こういったものを、どのように、いつまで、一般的に言う5W1Hのような形でまとめて、誰が、どこで、いつまでに、どのように、という形でまとめていただきたい。今後検討していくという表現は無責任かもしれないので、いつまでにというところを表現していただきたいことが一点。

その他の意見ということに対し、前回の会議の中で驚いたことだが、山梨県地方産業教育審議会が20年間開かれていない。20年というのは0歳の子供が成人式を迎えるほど大事な年数。開かれていないということは、すなわちこの審議会は必要なかったと考えられる。変化していくスピードの時代に何もしないということであれば必要性がないということなので、こういった審議会は見直しをしていくということと、これに代わるものが何か出てくる可能性もあるので、実際に活動できる審議会を作っていくことも必要と思っている。

「教育委員会と協議していきたい」というのも他責になってしまう。人に任せるとやらないから、大変きつい言葉かもしれないが産業人材課の責任の中でやっていただくことが大事だと思った。

【事務局】

色々な意見があったのでここでまとめさせていただく。

まず計画案の内容、表現や記載の方法の意見については、事務局としてはこういう機会が今後持たないので、会長と協議して修正できるものは修正していきたい。

また委員会の構成についても意見があった。今回の計画案とは違う話になるが、これについても次の改選の時に意見を踏まえて検討したい。

今回の第9次計画の背景は厳しい、その中で5年の計画だという意見については、毎年度、年次計画を策定しているので、今後、新しい施策がでたら年次計画の中でやっていく。

最後に「県の施策等に対する意見」について、今後検討していくというのが多いとの意見だが、これについても、毎年度の計画の中で出来るものは審議会の意見を聞いて、審議会に提示しながら進めていきたい。

【事務局】

いくつか文言等の確認で意見があったが、それらについては全体を見ていく中で調整していきたい。

13ページのポリテクセンター山梨の書き方の違いだが、他の場合は県の事業として県で行っていく形で書いてあるが、ポリテクセンター山梨は別法人、独立行政法人でやっているの、進めていくと書けない部分もあるため、進めているという書き方にして

いる。その最後に、県の立場として行う部分として、機構と連携して公共職業訓練の充実を図っていく、として県の進め方の書き方をしている。それ以外は、ポリテクセンターの現状を記載して、県としては共に推進していくというようになっている。

【委員】

私としては、ほぼ満足のいくまとめだと考えている。

産業界との連携、高校側との連携等についても強く打ち出されている。連携するためにはぜひ教育委員会側との協議等をしっかりやっていただき、この計画が産業労働部だけではなく教育現場全体に反映できるような形をとっていただきたい。

前回話をしたが、地産審が平成4年8月27日に「生徒減少期における職業教育のあり方」という答申を出した。今後生徒が減少していく中での専門教育、工業、農業、商業すべてを含めて、在り方について答申を出している。その後、それに似たような形で、県立学校の整備構想が2年前に発表された。その審議の過程で平成21年1月に教育関係者と産業界代表、企業側代表の委員の意見を聞く中で検討がなされ、その結果が産業界のニーズにあった学科改編であった。ニーズを反映した学校の設置とかには、まだ結びついていない感じだが、5年間の計画が出た機会を逃さずに、地産審になるのか分からないが、ぜひ教育委員会側との実施に向けしっかりと協議をされたい。

【委員】

3ページの本県における若年無業者数の推計値が減っているというところで、全国的には増えているのに本県では減っていて素晴らしいと思ったが、これは、なにか理由があるのか。推察していることがあればお聞かせ願いたい。

【事務局】

平成16年度からジョブカフェを設置して若年者の就業対策にあたっている。全国的にこの時期ジョブカフェを設けたが、県としては積極的に取り組んだことがこの結果に繋がったのかなと思っている。

【議長】

成功した施策ということで、できればもう少し根拠を示されたい。

他に意見はないか。

私のほうから、副題を「やまなしの産業を担う」ということで成長する産業に限定しないことが良かったと思う。

9ページのアンダーラインの部分「地場産業や伝統産業の分野においても、引き続き人材の育成を支援していく」は少し弱いような気がするので、国の施策にも合わせて、成長に向けたとか、活力のある人材の育成といった、第8次から進んだ表現をしていたら良いと思う。

あと、15ページのアンダーラインの「県内企業や工業系高校と連携し」というところで、工業系だけに限らなくて良いのではないか。高校にするか、あるいは、ものづくりということ、職業高校くらいまでにしたらどうか。

他に意見はないか。

【委員】

意見ではなく感想で、色々意見が出た中で最終的に良い案がまとまったと思う。

会議でこんなに意見が出るのは珍しいと思うが、それだけ人材育成、職業能力開発について、それぞれの委員の立場で重要だと思って関心があるのだと思う。

これは計画なので、実施に向けてはそれぞれの実施計画が出てくると思うので、実のあるものになるようお願いしたい。県にまかせるのではなく、それぞれ委員の立場でやっていかなければいけないとも感じた。

【議長】

この計画が検討事項も含めて確実に実現されることが大事なので、そのためにどうしたらいいか、本文の中で書く訳にはいかないかもしれないが県のほうでも取り組みを考えていただきたい。

他に意見がないようであれば、この辺で議題1を終了したいと思う。

昨年6月に県から諮問を受け本日まで4回にわたり「第9次山梨県職業能力開発計画」について審議を行ってきたが、本日の審議で概ね意見も集約され基本的には計画案に対して賛同いただけたと思う。

今後については先ほど事務局から説明があったように、私のほうで本日の意見等を踏まえて必要な調整をした上で、後日、県に答申として提出させていただきたい。

よければ今後の進め方について事務局と調整させていただく。

(2) その他

～事務局から計画策定の手続き、次回審議会開催について説明～